社会科（地理的分野）学習指導案

日　時　　令和３年６月２３日（水）
　　第５校時　１３：３０～１４：２０
学　級　　第２学年Ｃ組　３４名
授業者　　石川　将年
場　所　　５階　２年Ｃ組教室

１　単元名　Ｃ「日本の様々な地域」　(3)「日本の諸地域」　２節「中国・四国地方」

２　単元の目標

人口や都市・村落を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の特色ある地理的事象を多面的・多角的に考察し、中国・四国地方の地域的特色や地域の課題を捉える。

３　単元の評価規準

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
・中国・四国地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。 ・人口や都市・村落を中核とした考察の仕方で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。	・中国・四国地方において、人口や都市・村落を中核に設定した事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	・中国・四国地方について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

４　指導観

(1)単元観
中国・四国地方は、東西に連なる中国山地と四国山地が季節風の影響を遮り、山陰・瀬戸内・南四国の気候の特色を決定している。また、古くから重要な海上交通路であった瀬戸内海に面した瀬戸内には都市や人口が集中し、瀬戸内工業地域とよばれる臨海工業地域も発達している。日本の地方区分は本来８地方区分であるのに、中国地方と四国地方を合わせて７地方区分で学習するのは、この瀬戸内の地域的特色に着目することが重要だからであると考える。
中国・四国地方では、人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を学習する。地域の人口の分布や動態、都市・村落の立地や機能に関する特色ある事象と関連付けて、人口や都市・村落が地域の人々の生活・文化や産業などと深い関係を持っていることや、過疎・過密問題の解決が地域の課題となることについて学習を進めることで、中国・四国地方の地域的特色や地域の問題点について考察することができる。また、地域間の結び付きの整備である交通の発達を捉えることは、人口や都市・村落などに関する事象と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察することになり、中国・四国地方の地域的特色を追究するための重要な課題であると考える。

(2)生徒観
社会科や時事問題について、興味・関心の高い生徒が教師の問いかけに対して意欲的に発言し、授業の雰囲気を作っている。意欲的に発言できなくても、つぶやきで答える生徒もいて、こうしたつぶやきを取り上げることなどにより、教師と生徒の対話型の授業を進めやすいクラスである。

タブレットの使用頻度が高くなる中、社会科が苦手で発言やワークシートの記述ができなかった生徒も、入力の場合は雄弁に多くを語ることがあり、タブレットを使用した学習の効果を実感することもあるが、その反面、無言で入力する時間が増える中で、タブレットを使わない授業での発言までも減ってきていると感じる。

本時の授業では、タブレットを活用しながらも、対話的な場面を作るように意識し、無言で入力してその結果を共有するだけという授業にならないように、生徒の発言やつぶやきも生かせる授業にできればと考える。

(3)教材観

本州四国連絡橋は、近畿地方・中国地方と四国地方を結び付けることで、人や物の流れを活発にし、四国の農産物や水産物の全国シェア拡大や、通勤・通学圏の拡大、地域の発展に大きな役割を果たした。しかし、瀬戸内海が高速道路や鉄道で陸続きになったことで、フェリーなどの海上交通は衰退し、本州四国連絡橋のルートから外れた地域では海上交通もなくなったことで過疎化が進行するなど、交通の発達が利点だけでなく問題点や課題を発生させている。本州四国連絡橋で結ばれた地域であっても、大都市と結びついた地方都市の人口が減少したり、今までは宿泊していた観光客が日帰りになることで観光産業にも影響が出ている。九州地方で環境問題・環境保全を中核に考察した成果を生かし、さまざまな資料を多面的・多角的に考察する活動を通して、交通の発達によるメリットだけでなくデメリットにも気付かせ、交通の発達による地域の変化は一様ではないことを考えさせたい。

5　単元の指導計画と評価計画（時間扱い）

時	学習課題	学習内容・学習活動	評価規準 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的
1	中国・四国地方の自然の特色	中国・四国地方を概観し、自然（地形や気候）や人々の生活の特色を理解する。	①雨温図を活用して、山陰、瀬戸内、南四国の気候の特色を適切に読み取り、中国四国地方の地形や気候の特色を理解している。 ②瀬戸内が温暖で降水量が少ない理由を地形の特色と関連付けて多面的・多角的に考察している。
2 本時	交通の発達と地域の変化	交通の発達（本州四国連絡橋）の整備による地域の人々の生活の変化について考える。	①さまざまな資料を活用して、交通網の整備によって他地域と結びついた事による地域の変化を適切に読み取り、交通網の整備による地域の人々の生活の変化を理解している。 ②交通網の整備によって他地域と結びついた事による利点や問題点を多面的・多角的に考察している。
3	人口が集中する瀬戸内と工業の発展	瀬戸内に人口が集中する理由と瀬戸内工業地域の特色について考える。	①古くから海上交通が盛んな利点を生かした瀬戸内地域の工業の様子を適切に読み取り、その特色を理解している。 ②海外とつながることによる瀬戸内地域の工業の利点や課題を多面的・多角的に考察している。
4	交通網を生かして発展する農業	他地域との結び付きを生かして全国展開を進めている瀬戸内や南四国の農業の特色について考える。	①さまざまな資料から、他地域との結び付きを生かして全国展開を進めている瀬戸内や南四国の農業の実態を適切に読み取り、瀬戸内や南四国の農業の特色を理解している。

			②海外や他地域との競争が激しくなる中で行われる地域の努力や工夫を多面的・多角的に考察している。
5	農村の変化と人々のくらし	過疎化が進む地域の実態を知るとともに地域おこしについて考える。	①さまざまな資料から、高齢化や過疎化が進む地域の実態をとらえる。 ②地域の特色や観光業等を生かした地域おこしについて考察している。
6	中国・四国地方の振り返り	中国・四国地方の基本的事項を確認するとともに、地理的な見方・考え方を働かせて学習の成果を表現する。	①中国・四国地方の自然環境や社会環境に着目して、中国・四国地方の地域的特色を整理している。 ②人口や都市・村落を中核に設定した事象について、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して多面的・多角的に考察し表現している。 ③中国・四国地方の地域的特色や中国・四国地方の課題、地域の在り方等について主体的に追究し、解決しようとしている。

6　本時の目標

- 交通の発達によって、地域にどのような変化がもたらされるかについて、さまざまな資料からとらえる。
- 交通網の整備により他地域と結び付くことによる利点と問題点について、多面的・多角的に考察する。

7　本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準
導入 5分	＜発問１＞（AIAI モンキー　設問１） 「交通の発達」と聞いて、皆さんは地域にどのような変化がもたらされると思いますか。３つから選び、理由は具体的に書きましょう。＜２分＞		
	・「交通の発達」が地域にもたらすイメージについてアンケート形式の問いに答える。 ・分析結果を確認する。	・「わくわくの実」から目立ったキーワードを取り上げて、いくつかの記述内容を紹介する。 ・あまり時間をかけない。	
展開 ３５分	＜発問２＞（スクールタクト） 資料１のグラフから、何がわかるでしょうか。注目したところに○など印をつけましょう。＜３分＞		①② スクールタクトのノート記述内容
	・資料１「高松～岡山通勤通学者数の推移」から変化を捉え、その原因を考える。 ・1988 年に瀬戸大橋が開通し、瀬戸内海を越えた人の動きが多くなったことを知る。	・学習形態は一斉で行う。 ・解説にパワーポイントのスライドを使用するが、スライドショーにすると、スクールタクトとの切換が不便なので、編集画面のまま提示する。	

	・NHK for school「岡山県瀬戸大橋(1'54")」を視聴して、瀬戸内海を越えた人や物の移動が活発になったことを知る。	・本州四国連絡橋の３ルートと位置を確認し、本州と四国を結ぶ交通の発達の様子を知る。	
	＜発問３＞（スクールタクト） 資料２「徳島県産地鶏の出荷量と国内シェア」を見て、交通の発達によるメリットが読み取れれば右上の□に○を、デメリットが読み取れれば×を記入し、資料からわかることやメリット・デメリットの内容を書きましょう。		
	・資料２については、やり方を理解するために教師主導で一斉に行う。	・学習形態は一斉。最初の考察なのでわかりやすい事例を取り上げる。	
	＜発問４＞（スクールタクト） 資料３、４、５についても資料２と同様に進めましょう。 ＜１０分＞		①② スクールタクトのノート記述内容
	・資料３「本四間自動車通行台数推移」 ・資料４「徳島県の阪神方面購買流出率」 ・資料５「本四間高速バス便数輸送人員推移」	・学習形態は個別。 ・資料３は全員が考察することとし、資料３を終えた生徒は資料４、５に進ませる。 ・生徒の記述からメリットとデメリットの両方を取り上げ、理由を生徒に発言させる。	
	＜発問５＞（スクールタクト） 交通の発達によるメリットとデメリットをまとめましょう。 ＜３分＞		①② スクールタクトのノート記述内容
	・メリットとデメリットを整理する。	・何人かの入力内容を紹介する。	
終結 １０分	＜発問６＞（AIAI モンキー　設問２） 「交通の発達」による「地域の変化」はメリットとデメリットのどちらが大きいと思いますか。理由や今日の授業の感想は具体的に書きましょう。＜３分＞		①② AIAI ﾓﾝｷｰの自由意見記述内容
	・分析結果を確認する。 ・設問１の結果と比較する。	・「わくわくの実」から目立ったキーワードを取り上げて、いくつかの記述内容を紹介する。	

8　本時の評価

- 　さまざまな資料から、地域の変化をつかむことができる。
- 　交通の発達にによる地域の変化について多面的・多角的に考察し、利点だけでなく問題点や課題もとらえることができる。

9　研究主題にせまるタブレット端末活用の手立て

研究主題：「生徒の学びに向かう力の育成
～一人１台のタブレット端末で変わる学校生活～」

(1)タブレット端末だからこそ・・・
① AIAIモンキーではアンケートの即時集計と、集計データの即時活用が可能。
② スクールタクトでは、生徒一人一人が資料を手元でじっくりと考察できる。
③ 生徒の課題進捗状況を把握しやすく、思考を可視化しやすい。
④ 発言やワークシートへの記述では、なかなか表現できない生徒が、入力だと雄弁になることがある。

(2)研究主題にせまる・・・
① 他者の意見を参考にして自らの考えを深めることで､学びに向かう力を育成できる。
② 一人１台だからこそ、自分のペースでじっくりと資料を考察できる。
③ 発言やワークシートの記述が苦手という生徒が、キーボード入力だと表現できるなら、タブレット端末を活用して表現の機会を増やし練度を高めることで、学びに向かう力を育成することができる。
（もちろん、発言やワークシートへの記述に結び付けたい。）

１０　ＩＣＴ機器活用

・教師用タブレット（AIAIモンキー、スクールタクト、パワーポイント）
・生徒用タブレット（AIAIモンキー、スクールタクト）
・NHK for school「岡山県瀬戸大橋」
・ワイヤレスコントローラー　：　生徒の画面を確認しながら授業を進めたり、机間指導・支援をしながら全体に資料等を提示する場合に必要なツールである。

校内研究　ＩＣＴ機器活用指導案

教科・学年・組・授業者	社会科（地理的分野） 1学年C組　授業者：石川　将年
授業日時・場所	7月16日（木） 第4校時　1年C組教室
単　元　名	世界各地の人々の生活と環境
単元の目標	・地域で異なる自然環境について、各種資料からとらえる。 ・人々の生活と自然的条件や社会的条件との関わりを知り、時代とともに変容していることにも注目する。
単元の指導計画	1. 世界の気候区分 2. 世界のさまざまな住居　＜本時＞ 3. 世界各地の人々の生活と環境 （寒帯・冷帯・温帯・熱帯・乾燥帯・高山気候） 4. 生活に根ざす宗教や伝統的生活
本時の目標	・住居の画像からその地域の自然環境の特色をとらえ、気候の特色を表す雨温図と結びつける。
本時の評価	1. 画像から必要な情報をとらえることができる。（資料活用） 2. 考察した結果や過程を自分の言葉で説明することができる。（思考・判断・表現）
本時の授業形態	☑一　斉　☐少人数　☐習熟度別　☐グループ　☐個　別

タブレット端末の活用

授業場所	☑普通教室　☐学習室　☐視聴覚室　☐その他（　　）
活用場面	☐導　入　☐展　開　☐まとめ　☐その他（　　）
活用機器	☑学習者用タブレット　☑指導者用タブレット　☐電子黒板 ☐実物投影機　☐その他（　　）
活用 アプリケーションなど	☐ワープロ　☐表計算　☑プレゼンテーション　☐データベース ☑画　像　☐動　画　☐カメラ　☐作　画　☐編　集 ☐デジタル教科書　☐NHK for school　☐その他（　　） ☑まなびポケット ☑スクールタクト　☐AIAIモンキー　☐コラボノート ☐イングリッシュセントラル　☐その他（　　）
活用形態	☑１人１台　☐学習班に1台　☐その他（　　）
タブレット端末活用のねらい・効果	・生徒一人一人が、意欲的に課題に取り組むことができる。 ・画像を必要に応じて拡大して考察するなど、資料を効果的に活用できる。

授業展開例

	学習内容 生徒の学習活動	ＩＣＴ活用場面 ＩＣＴ活用のポイント	○指導上の留意点 ☆評価
導入	・本時の課題を知る 住居の画像からその地域の気候を追究する方法について確認する	・パワーポイントを使用 ・教師が提示するスライドを見て、住居の画像から気候を解読する方法について確認する。	○自由に発言させる。 ○風景だけでなく、住居の形状や素材にも注目させる。 ☆資料活用の技能 （観察）
展開	1.画像A・Bを見て、その地域の気候を追究するポイントに印をつける。 2.雨温図と結び付け、考察の課程や結果を入力して発表する。 3.画像AとBの住居は、どちらも素材が木なのに、全く異なる気候の住居であることを知る。	・スクールタクトを使用。 **・１人１台なので、自分の気になる部分を自分のペースで観察できる。** **・画像に直接マークを付け、気付いた点を入力することにより、考察の課程がわかりやすくなり、発表しやすくなる。また、発言が苦手な生徒でも、入力することで発表することができる。**	○机間指導を行う。 **○必要に応じて画像を拡大したり、雨温図を比較することで、より深く考察できるようにする。** ☆思考・判断・表現 ○素材や形状に共通点があっても、その理由や効果が異なることをつかむ。
まとめ	・気候の特色に適応した様々な住居があり、形状などに共通点があっても気候が異なれば役割も違うことを確認する。	・パワーポイントを使用。	○教室の窓の大きさにも注目させ、その理由を考えさせる。

校内研究　ＩＣＴ機器活用指導案

教科･学年･組･授業者	社会科 歴史的分野 １年Ｂ組　授業者：石川　将年
授業日時・場所	令和２年１０月２８日（水）３校時
単　元　名	第３章 中世の日本と世界　１節 世界の動きと武家政治の始まり 第４時 武士の生活
単元の目標	・武士や民衆の活力を背景に生まれた新たな社会や文化の特色について考える。
単元の指導計画	１ １０～１３世紀頃の世界　　４ 武士の生活＜本時＞ ２ 院政と平氏政権　　５ 承久の乱と武家政治の広まり ３ 武家政治の成立と封建制度　　６ 新しい仏教と鎌倉文化
本時の目標	・「流鏑馬」の映像や「一遍上人絵伝」の「武士の館」から武士の暮らしの特色や心構えなどについて考える。
本時の評価	・映像や絵画資料から、常に戦の備えを怠らなかった鎌倉時代の武士の生活の様子をとらえる。
本時の授業形態	☑一 斉　☐少人数　☐習熟度別　☐グループ　☐個 別

タブレット端末の活用

授業場所	☑普通教室　☐学習室　☐視聴覚室　☐その他（　　）
活用場面	☐導 入　☑展 開　☐まとめ　☐その他（　　）
活用機器	☑学習者用タブレット　☑指導者用タブレット　☐電子黒板 ☐実物投影機　☐その他（　　）
活用 アプリケーションなど	☐ワープロ　☐表計算　☐プレゼンテーション　☐データベース ☐画 像　☑動 画　☐カメラ　☐作 画　☐編 集 ☑デジタル教科書　☐NHK for school　☑その他（　　） ☐まなびポケット ☑スクールタクト　☐AIAIモンキー　☐コラボノート ☐イングリッシュセントラル　☐その他（　　）
活用形態	☑１人１台　☐学習班に1台　☐その他（　　）
研究主題にせまるタブレット端末活用の手立て	・生徒一人一人が、意欲的に課題に取り組むことができる。 ・画像を必要に応じて拡大して考察するなど、資料を効果的に活用できる。
タブレット端末の活用において期待される効果	・発言が苦手な生徒でも入力することで授業に積極的に参加し、学びを深めることができる。

授業展開例

	学習内容 生徒の学習活動	ＩＣＴ活用場面 ＩＣＴ活用のポイント	○指導上の留意点 ☆評価
導入	1 御家人の心構えを表す言葉を確認する。 「いざ鎌倉」「一所懸命」	**＜スクールタクト＞** **・スクールタクトを起動。各クラスに対する課題なので、授業コードの入力は必要ない。** **・枠の中にテキスト入力させる。**	○教室の後ろ側から生徒用タブレットの画面を確認し、トラブルなどがあれば素早く対応する。 ☆観察 ＜関心意欲態度＞
展開	2「流鏑馬」の映像を視聴して、御家人の武芸の訓練について知る。	**・京都葵祭で行われた流鏑馬神事の映像を見て、騎馬による武芸の訓練について知ると共に、各地の伝統行事として伝承されていることを知る。**	○「いざ鎌倉」「一所懸命」に備えるために、御家人が日頃から励んでいた武芸の訓練を知る。 ☆観察 ＜関心意欲態度＞
	3「一遍上人絵伝」の武士の館を見て、描かれている動物に注目し、なぜ飼われているのかについて考え発表する。	**・絵巻物解読のウォーミングアップとして、描かれている動物に注目させる。**	○飼われている動物にも武士の生活としての理由があることを考えさせる。 ☆観察・発言・入力内容 ＜思考判断表現＞
	4「一遍上人絵伝」の武士の館を見て、武士の館であることがよく分かる部分について気付いたことを入力して発表する。	**・気になる部分を拡大するなどして、武士の館ならではという工夫を探り、その位置に記号を入力、次のメモページに理由を記入して発表する。**	○「塀」「堀」「やぐら」「盾」「弓矢」「見張り番」など、敵の攻撃に備えるための工夫を確認させる。 ☆観察・発言・入力内容 ＜思考判断表現＞
まとめ	5 鎌倉時代の武士が日常から「いざ鎌倉」『一所懸命」に備えた生活をしていたことを確認する。	**・武士の生活についてわかったこと気付いたこと感想などを入力して発表する。**	○平時から戦時を意識して生活していた御家人の生活がどのようなものだったか、想像力を持って考えさせる。 ☆観察・発言・入力内容 ＜関心意欲態度＞

校内研究　ＩＣＴ機器活用　指導案

教科・学年・組	社会科　歴史的分野　２年Ａ組
授業日時・場所	令和元年　１２月１８日（水）　４校時　　２年Ａ組教室
単　元　名	幕藩体制の確立と鎖国
単元の目標	・江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、鎖国下の外交政策、身分制度の確立及び農村の様子などを通して、江戸幕府の政治の特色を考えさせ、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。
単元の指導計画	1　なぜ江戸幕府は長期政権だったのか 2　江戸幕府の成立と幕藩体制 3　江戸幕府の外交 4　江戸時代の国際関係 5　江戸時代の身分制度 **6　江戸時代の農民の生活　＜本時＞**
本時の目標	・江戸幕府の農民統制のねらいと農民生活の実態を、資料をもとに探ることができる。 **・タブレット端末を使って意欲的に絵画資料の解読に取り組む。**
本時の評価	・各種資料から幕府のねらいと農民生活の実態をとらえることができた。 **・タブレット端末を活用して、絵画資料から農民の具体的な生活を読み取ることができた。**
本時の授業形態	■一　斉　□少人数　□習熟度別　□グループ　■個　別

タブレット端末の活用	
授業場所	■普通教室　□学習室　□視聴覚室　□その他（　　）
活用場面	□導　入　■展　開　□まとめ　□その他（　　）
活用機器	■学習者用タブレット　■指導者用タブレット　□電子黒板 □実物投影機　■その他（プロジェクター　　）
活用ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝなど	□ワープロ　□表計算　□プレゼンテーション　□データベース □画像　□動画　□カメラ　□作画 □デジタル教科書　□ NHK for school　■その他（ 自作資料 ） ■まなびポケット （ ■スクールタクト　□ＡＩＡＩモンキー　□コラボノート □イングリッシュセントラル　□その他（　　） ）
活用形態	■１人１台　□学習班に１台　□その他（　　）
ﾀﾌﾞﾚｯﾄ活用のねらい・効果	**・生徒一人一人が絵画資料を手元で拡大するなどして解読することで、意欲的に取り組むことができる。** **・発言が苦手な生徒も、入力という形で考えや気付きを発表でき、授業に積極的に参加できる。**

2　授業展開例

	学習内容 生徒の学習活動	**ＩＣＴ活用場面** **ＩＣＴ活用のﾎﾟｲﾝﾄ**	○指導上の留意点 ☆評価
導入	1　江戸幕府の農民統制のねらい ・家康の言葉や御触書から幕府のねらいを考えワークシートに記入する		○資料をスクリーンで全体に提示する ○幕府が農民を経済基盤としてどのように考えていたか理解させる ○江戸時代の農民の一般的なイメージを確認する ☆思考判断表現 （発言･ワークシート）
展開	2　農民の生活を探る **①「四季耕作図巻」を見て、わかったことや気付いたことを発表する** ②農村の休日の資料から生活の実態について考える ③改めて御触書のねらいを考える	**☆スクールタクトを使用** **☆課題に「四季耕作図巻」４枚用意して、生徒が各自の興味関心に応じて解読する** **☆気付いた場所にマークさせる** **☆内容は枠内に記述(入力)させる** **☆提出された課題をスクリーンに提示して、数名分を取り上げる**	○ここからの学習形態は個別＋机間指導 ○全員が少なくとも１枚の絵画からは解読する ○意欲的な生徒には４枚すべてに取り組ませる ○数名を指名し、生徒に説明させる ○ここからの学習形態は一斉 ○スクリーンに資料を提示する ○スクリーンに資料を提示する ☆資料活用 （発言･入力内容･観察・ワークシート）
まとめ	3　農民生活の実態 ・江戸時代の農民生活の実態についてわかったことをワークシートにまとめて発表する		○数名を指名し、発表させる ☆思考判断表現 （発言・ワークシート）